

2021年12月6日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

・ 適用拡大 2021年11月24日付（4件）

(1) 日農アグロスリン水和剤

登録第16585号

適用病害虫名の追加:かんきつ/アケビコノハ、ヒメグリハ(2000倍)

みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)/アブラムシ類(1000~2000倍)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シベルメリンを含む農薬の総使用回数
かんきつ	アケビコノハ ヒメグリハ アブラムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ	2000倍	200~700 ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
みょうが (花穂)	アブラムシ類	1000~ 2000倍	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布、但し 花穂の発生期には マルチフィルム被覆 により散布液が 直接花穂に 飛散しない 状態で使用する	5回以内
	アザミウマ類 ハスモンヨトウ	1000倍					
みょうが (茎葉)	アブラムシ類	1000~ 2000倍		みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し、花穂を 収穫しない 場合にあっては 開花期終了まで			
	アザミウマ類 ハスモンヨトウ	1000倍					

* 注意事項の変更はありません。

(2) アクセルフロアブル

登録第 22461 号

使用方法の追加: キャベツ、ブロッコリー/8 倍(1.6ℓ/10a)無人航空機による散布

しょうが/16 倍(3.2ℓ/10a)無人航空機による散布

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタルミゾンを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	コナガ、アオムシ キスジ/ミハムシ	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内	
	ハイマダラノメイガ ハスモンヨウ オオタバコガ ヨウムシ、ウワバ類	1000～ 2000 倍						
	コナガ、アオムシ ハスモンヨウ オオタバコガ ヨウムシ、ウワバ類	8 倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布		
ブロッコリー	ヨウムシ ハスモンヨウ	1000～ 2000 倍	100～300 ℓ/10a		2 回以内	散布		2 回以内
	コナガ	1000 倍						
	ヨウムシ ハスモンヨウ コナガ	8 倍	1.6ℓ/10a			無人航空機 による散布		
しょうが	ハスモンヨウ アワノメイガ	1000～ 2000 倍	100～300 ℓ/10a	3 回以内	散布	3 回以内		
		16 倍	3.2ℓ/10a		無人航空機 による散布			

【変更する注意事項】

- ・ ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ② 関係機関(都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- ・ 無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ① 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 散布薬液の飛散によって自動車やカート等の塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ⑤ 散布終了後は次の項目を守ること。
 - (a)使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
 - (b)機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

(3) 日農フォース粒剤

登録第 18313 号

① 使用時期の変更:ねぎ(株元散布)「土寄せ前 但し、収穫 30 日前まで」⇒「収穫 30 日前まで」

② 作物名の追加:にら/ネキリムシ類(4~9 kg/10a)、定植前(全面土壌混和)、1 回

ネダニ類(9 kg/10a)、定植前(全面土壌混和、植溝土壌混和)、1 回

収穫 14 日前まで(株元散布)、1 回

らっきょう/ネダニ類(9 kg/10a)、定植前(全面土壌混和、植溝土壌混和)、1 回

(6~9 kg/10a)、収穫 14 日前まで(株元散布)、1 回

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テフルリンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネキリムシ類	4~9kg/10a	定植時	1 回	作条土壌混和	2 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、 定植後の処理は 1 回以内)
	ネダニ類 クロハネキノコハエ類	9kg/10a			株元散布	
	クロハネキノコハエ類	9kg/10a	収穫 30 日前まで			
	ネダニ類	6~9kg/10a				
にら	ネキリムシ類	4~9kg/10a	定植前		全面土壌混和	2 回以内 (定植前の処理は 1 回以内、 定植後の処理は 1 回以内)
	ネダニ類	9kg/10a			植溝土壌混和	
			収穫 14 日前まで	株元散布		
らっきょう	ネダニ類	9kg/10a	定植前	全面土壌混和	2 回以内 (定植前の処理は 1 回以内、 定植後の処理は 1 回以内)	
		6~9kg/10a	収穫 14 日前まで	植溝土壌混和		
	株元散布					

【変更する注意事項】

- ・ ねぎに対して使用する場合で、生育期間中に土寄せをする栽培においては、ねぎ根部周辺に薬剤が届きやすい生育期前半の土寄せ前に使用すること。

(4) 日農バサグラン液剤(ナトリウム塩)

登録第 23964 号

① 作物名の追加: おうぎ/一年生雑草(イネ科を除く)、生育期 但し収穫 30 日前まで、200mℓ/10a、
100ℓ/10a、2 回以内、雑草茎葉散布又は全面散布

② 使用時期の変更: たまねぎ/

「春播栽培の移植後 6 月上旬まで(雑草の 3~4 葉期)但し収穫 30 日前まで」

⇒「春播栽培の移植後 6 月上旬まで 但し収穫 30 日前まで」

「秋播栽培の移植後生葉 4 葉期まで(雑草の 3~4 葉期)但し収穫 30 日前まで」

⇒「秋播栽培の移植後生葉 4 葉期まで 但し収穫 30 日前まで」

らっきょう/「出芽後(雑草の 3~6 葉期) 但し収穫 60 日前まで」

⇒「出芽後 但し収穫 60 日前まで」

いんげんまめ/「初生葉展開期~本葉抽出始期(雑草の 2~3 葉期)」

⇒「初生葉展開期~本葉抽出始期」

えんどうまめ/「3~6 葉期(雑草の 3~6 葉期) 但し収穫 70 日前まで」

⇒「3~6 葉期 但し収穫 70 日前まで」

実えんどう、さやえんどう/「3~6葉期(雑草の3~6葉期) 但し収穫40日前まで」

⇒「3~6 葉期 但し収穫 40 日前まで」

とうもろこし、飼料用とうもろこし/「生育期(雑草の 3~6 葉期) 但し収穫 50 日前まで」

⇒「生育期 但し収穫 50 日前まで」

ソルガム/「生育期(雑草の3~6葉期) 但し収穫30日前まで」

⇒「生育期 但し収穫30日前まで」

麦類(小麦を除く)/「生育期(雑草の3~6葉期) 但し収穫90日前まで」

⇒「生育期 但し収穫 90 日前まで」

小麦、はとむぎ/「生育期(雑草の3~6葉期) 但し収穫45日前まで」

⇒「生育期 但し収穫45日前まで」

べにばないんげん/「生育期(雑草の生育初期~6葉期) 但し収穫45日前まで」

⇒「生育期 但し収穫45日前まで」

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
たまねぎ	一年生雑草 (イネ科を除く)	春播栽培の 移植後6月上旬まで 但し 収穫30日前まで	60~120 ml/10a	70~100 ℓ/10a	1回	雑草茎葉 散布 又は 全面散布	1回
		秋播栽培の 移植後生葉4葉期まで 但し 収穫30日前まで					
らっきょう		出芽後 但し 収穫60日前まで	100~200 ml/10a				
いんげんまめ		初生葉展開期~ 本葉抽出始期	50~70 ml/10a				
えんどうまめ		3~6葉期 但し 収穫70日前まで	100~200 ml/10a				
実えんどう さやえんどう		3~6葉期 但し 収穫40日前まで	100~200 ml/10a				
とうもろこし 飼料用とうもろこし		生育期 但し 収穫50日前まで	100~150 ml/10a				
ソルガム		生育期 但し 収穫 30 日前まで	100~200 ml/10a				
麦類 (小麦を除く)		生育期 但し 収穫90日前まで	100~200 ml/10a				
小麦		生育期 但し 収穫45日前まで	150 ml/10a				
はとむぎ		生育期 但し 収穫30日前まで	200 ml/10a		100 ℓ/10a	2回 以内	2回以内
おうぎ		生育期 但し 収穫45日前まで	100~200 ml/10a		70~100 ℓ/10a	1回	畦間雑草 茎葉散布

【変更する注意事項】

本剤は一年生広葉雑草に有効であるが、作物ごとに使用薬量等が異なるので、時期を失しないように、雑草茎葉にかかるよう均一に散布すること。

各作物の雑草への散布適期は以下のとおりである。

- ・らっきょう、えんどうまめ、実えんどう、さやえんどう、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム、麦類(小麦を除く)、小麦、はとむぎ、せり、おうぎ …… 雑草 3~6 葉期
- ・べにばないんげん …… 雑草の生育初期~6 葉期
- ・たまねぎ …… 雑草の 3~4 葉期
- ・いんげんまめ …… 雑草の 2~3 葉期

【追加する注意事項】

おうぎに使用する場合、本剤は一時的には葉先の黄化等の薬害を生じることがあるので、特に天候等をよくみきわめてから散布すること。